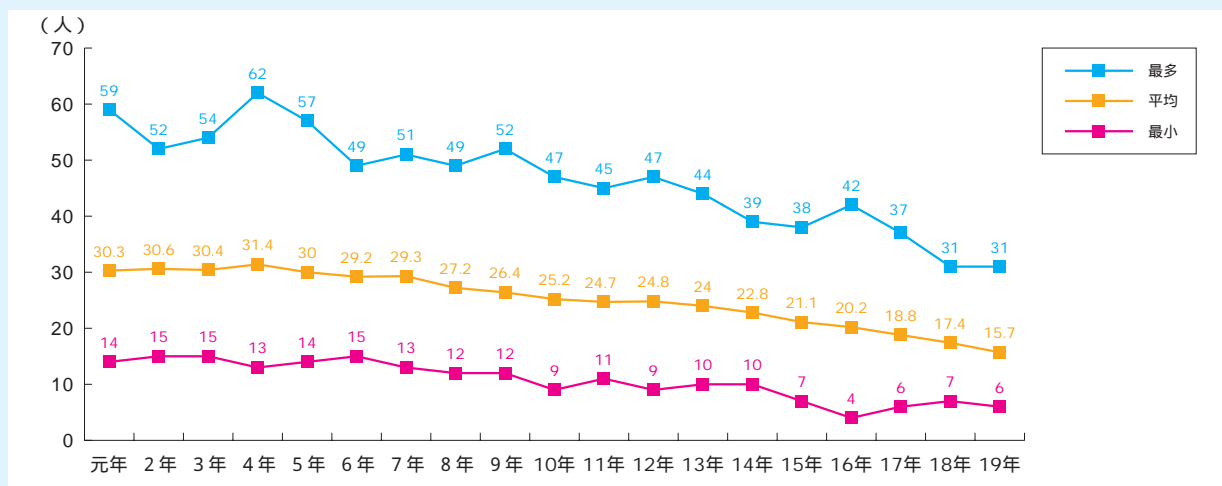


## 「交通事故死ゼロを目指す日」について

### 交通事故死ゼロへの挑戦～新たな国民運動

昨年の交通事故による死者数は、5,744人。昭和28年以来54年ぶりに5千人台後半まで減少したものの、記録が残る昭和43年以降、交通死亡事故が発生しなかった日はありません。また、負傷者数は9年連続して100万人を超えるなど、交通事故のない社会づくりは国民が安心できる生活を築く上で最も重要な課題の一つと言えます。

1日当たりの交通事故死者数の推移



注 警察庁資料による。

福田内閣では、平成19年12月に国民が安心して生活できるよう「生活安心プロジェクト」を立ち上げ、4つの国民運動の一つとして悲惨な交通事故撲滅に向けた「交通事故死ゼロを目指す日」が設定されました。

平成20年は、2月20日と4月10日の二日間です。交通安全に対する国民の意識の向上を図り、国民一人ひとりが交通事故に注意して行動することにより交通事故の発生を抑止し、近年の交通事故死傷者数の減少傾向をより確実なものにしたいと考えています。

### 岸田大臣による広報啓発キャンペーン



小学校にて交通安全教育を実施



街頭キャンペーンにて  
パンフレット・啓発品を配布

### ルールとマナー～事故のない社会の実現を

交通事故を未然に防止するためには、国民一人ひとりが交通ルールを守り、交通マナーを実践することが不可欠です。特に子どもは、自宅近くや通学路で飛び出しによる事故に遭うことが多いので、家庭でしっかりと交通安全教育をすることが大切です。車道は危険がいっぱいです。親子で歩いて、子どもの目線で何が見えるか、何が見えないのかを親が知り、危険箇所を教えてあげてください。

また、歩行中は必ず反射材を身につけましょう。ヘッドライトを下向きにして走行している車もありますので、反射材は足・靴など下半身に貼ることも必要です。

もちろん、車に乗る人も「当たり前のことを当たり前」に行うことが大切です。そう、シートベルト・チャイルドシートの着用です。後部座席でシートベルトを着用すると、「俺の運転が信用できないのか。」という人がいます。常識と非常識が逆転していますよね。昨年一年間で自動車乗車中に死亡した方の49.7%がシートベルトをつけていませんでした。特に後部座席は着用率が低く、昨年、後部座席で死亡した方の84.0%がシートベルトをつけていませんでした。

時速40km/hで衝突した場合、乗員にかかるエネルギーは最大で体重の30倍になります。あなたは、自分の体にかかる2トン余りの力をシートベルトなしで支えられますか。

最後に、自転車の話をします。自転車は、今や子どもから高齢者まで幅広い年齢層において、日常生活の交通手段となっているほか、今後も環境配慮型社会の形成、健康増進等の目的からその利用促進が見込まれています。

しかし、昨年1年間で、自転車が関連する交通事故の件数は約17万1千件に上り、自転車事故の約7割に自転車利用者の法令違反が認められます。

無灯火や二人乗り、携帯電話使用や傘差し運転、歩道における歩行者への迷惑運転などは交通事故の原因となります。自転車利用者の一人ひとりが交通ルールを守ることで、必ずや、自転車の交通事故防止と被害軽減を図ることができるのです。

政府広報番組にて放送～自転車安全利用に向けた現場の取組



雨の中、傘差し・一時停止無視で  
駅に向かう自転車



「交通事故死ゼロを目指す日」を呼びかける  
地域交通安全活動推進委員

本年の実施結果

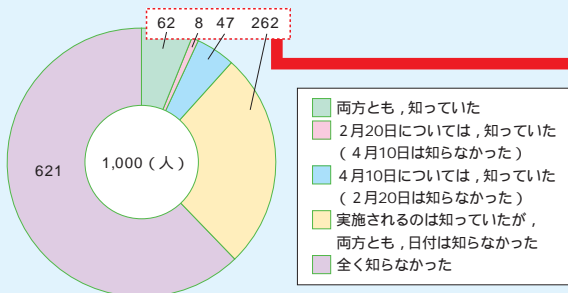
悲惨な交通事故を1件でも減らすため、2月20日と4月10日の「交通事故死ゼロ」達成に向け、まさに官民一体となって、全国津々浦々で様々な広報啓発活動が行われましたが、大変痛ましいことに2月20日、4月10日ともに10人の尊い命が失われました。

でも、交通事故死ゼロへの挑戦は、諦めません。

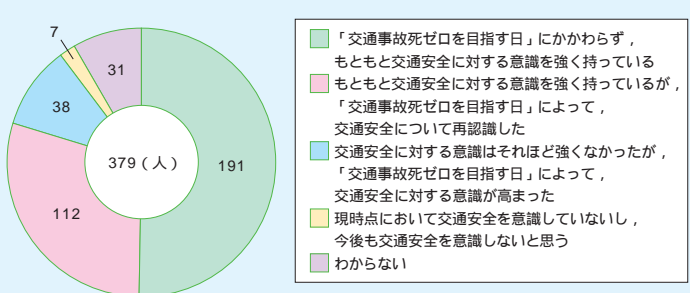
この国民運動は、交通安全の種まきなのです。みんなが周囲の人を思いやる心を持って行動すれば、必ず芽の出る、花の咲く、実のなる種なのです。

人は一生のうち、二人に一人が交通事故に遭うと言われています。決して他人事ではありません。公道を歩く者の、走行する者の責任として、交通安全について今一度考えてみませんか。

今年の2月20日と4月10日が「交通事故死ゼロを目指す日」とされたことを知っていましたか。



「交通事故死ゼロを目指す日」によって、交通安全に対する意識に変化はありましたか。あなたにもっとも近いものをお教えてください。



注 内閣府実施（平成20年4月）のモニター意識調査より抜粋。